

DESIGNPHIL NEWS LETTER

2025 VOL.44

「ゆるログ」のある生活

NEWS LETTER

2025 VOL.44

「ゆるログ」のある生活

Casual Life Log Notebook



ゆるログ

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第44号

発行日 | 2025年8月29日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

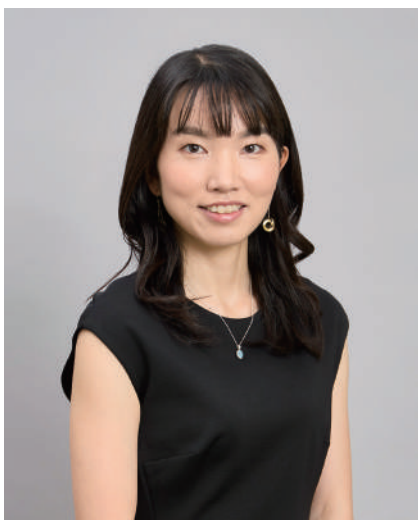
TEL 03-5789-8058

株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-19-19 恵比寿ビジネスタワー 9F

www.designphil.co.jp

75年目の決意



代表取締役社長
会田ゆり

私がデザインフィルの門をたたいたのは2014年6月。約11年、うち8年をアメリカで過ごし、現地法人立ち上げや小さな組織経営、挑戦と模索を重ねました。そして2025年7月1日、デザインフィル代表取締役役に就任しました。創設75年で過去最高の売上・利益を達成したこの節目に重責を引き継ぐことに身が引き締まります。同時に、仲間と次の頂を目指せることに希望とワクワクでいっぱいです。

1950年の創設以来、デザインフィルは「ものづくり」と「デザイン」の交差点で挑戦を重ねてきました。多くのお客さま、パートナー、そして社員に支えられながら、「ものづくり」への情熱と「デザイン」の力、そして「ハウス・オブ・ブランド」としての多彩なポートフォリオを強みに、私たちはこれからも人間にしか生み出せない「感性」「身体感覚」「直感」といった、アナログならではの価値を追求してまいります。

世の中が「より物事を便利に効率化する会社」で溢れる中で、私たちは、社会を少しでも心地よく、手ざわりのある場所にしたいと考えています。当社のブランドや事業の存在が、日々の暮らしにささやかなポジティブな変化をもたらし、「これが好き」「あれが待ち遠しい」「なんだか心地いい」という感覚を、皆さまの人生に届けられたら、それが私たちの願いです。

コロナ禍で頻繁に耳にした「不要不急」という言葉にうんざりさせられたのは私だけではないでしょう。必要最小限の生活には不必要であっても、一見無駄に見えるものこそが、生きる活力に必要なライフラインであり、誰かにとっての生きる意味になり得ます。心を癒す音楽、視野を広げる旅、体温を感じる人との交流が、まさにそれです。なくても生きるには困らないけれど、あることで笑顔が増え、大切な人との会話が増え、私だけの愉しみが増える。私たちは、そういう心の拠り所になるモノやコトを創造してきました。

例えば「トラベラーズカンパニー」は、「毎日を旅するように過ごす」という、人間の普遍的な営みである「旅」を核に据えたコンセプトで、世界中に共感の輪を広げています。昨年11月にカリフォルニアで実施した「Road Trip」イベントで、もはやライフスタイルブランドの域を超え、世界に新たな価値観や文化を根付かせる活動家的な役割を担う存在へと昇華していると肌で感じました。そこには、分断や断絶ではなく、異なる価値観を持つ人々がその差異を乗り越え、共感できるポイントを見出す手助けをするブランドの姿がありました。「旅で世界平和を」これを声高に訴えることなく、その存在を通じてムーブメントを起こしている。そこに集まる人々の笑顔や、彼らが作り出す空気感を肌で感じた時、私の心は震え、同時に果てしない可能性に鳥肌が立ちました。

デザインフィルは、これからも変わらず多彩なブランド・事業を通じて、世の中にポジティブなソーシャルインパクトを起こす会社として、また、世界の一角を照らす存在として、ますます期待を寄せていただける会社へと革新してまいります。

10年後の予測はできなくても、決意はできます。

私たち一人一人が決意を新たに、これからの私たちの新たなチャレンジをどうか温かく、時に厳しく見守っていただけたら幸いです。

2024年5月に誕生し、ノートデコレーションが
好きな方を中心に愛用いただいている「ゆるログ」。
今号では、そんな「ゆるログ」シリーズの魅力をご紹介します。

「ゆるく楽しく」 日々の記録ができるノートシリーズ

「ゆるログ」は誰でもかんたんに「ゆるく楽しく」日々の記録が
できるノートシリーズです。ノートのアレンジに自信がない初心
者の方でも、好きなノートとカバーやシール、スタンプを組み
合わせて、かんたんにお気に入りの1冊を作ることができます。

3ステップでかんたんに、
日々の記録を彩るライフスタイルノートが完成。



Step 1

好きなノートとシールの
組み合わせを選ぶ。

Step 2

余白を気にせず自由に書い
てみる。イラスト入りだから
文字は少なくともOK。



Step 3

シールを使ってページ
の余白を埋めることで、
ステキなノートが完成。



「ゆるログ」の特徴



1 最初からノートにイラストが入っている

書き込む量が少なくても余白を気にせず使える。



2 めくる度にさまざまなデザインが楽しめる

見開き4柄入り。ノート自体のデザインも豊富にそろそろ。

3 ノートデコをサポートするさまざまなアイテム

ノートと一緒に使える、幅広いデザインのシールやスタンプをラインアップ。貼ったり押したりするだけでかわいいノートが完成。



4 デザインを邪魔しないさりげないドット方眼

文字を書くときのガイドラインに。



CHECK!



「ゆるログ」シリーズのご紹介

日々の記録が楽しくなるような「ゆるログ」シリーズの第一弾ラインアップをこだわりのポイントとあわせてご紹介します。



◎ ドット方眼のノート

森の動物柄/ネコ柄/北欧柄/マイライフ柄/水彩柄

▶ 全ページにイラストが入ったノートで余白を気にせず楽しめます。

◎ 月間フリー ダイアリー

◎ 方眼罫のノート (2mm方眼罫)

▶ スタンプが裏抜けしにくい厚口用紙を使用しています。



◎ 水性ペンで書けるシール

森の動物柄/ネコ柄/北欧柄/マイライフ柄/水彩柄/飾り柄

◎ 日々の記録を彩るシール

動物柄/モチーフ柄/気持ち柄

▶ 豊富なデザインでノートデコレーションがより楽しく。



◎ 半透明のノートカバー

▶ 「ゆるログ」のノートが2冊入ります。

◎ ファスナーポーチ ノートカバー

ベージュ/水色

▶ ノートデコレーションに必要な小物をたっぷり収納できるポケット付き。

開発者ストーリー

「ゆるログ」誕生のきっかけや開発裏話をご紹介します。

「ゆるログ」誕生の きっかけは？

幅広いアイテムがそろった「ミドリ」だからこそ、いろいろと組み合わせて使える、日々を記録できるノートを作りたいという思いがきっかけです。最終的にシールやスタンプと一緒に楽しめて、誰でもかんたんに日々の記録ができるノートシリーズとして誕生しました。(喜田)



プロデューサー
喜田雄亮



デザイナー
門脇梨恵



製造
松井万里

開発中苦労した点は
ありますか？

ノートのコンセプトを決めるのに最も苦労しました。方向性が決まってからも「どうすればノートデコ初心者に寄り添えるのか」という軸がぶれないよう、試行錯誤を繰り返しました。(喜田)



「ゆるログ」シリーズの 中でお気に入りの アイテムはありますか？

デザインの
こだわりは
ありますか？

単なる柄入りのノートにならないよう、見開きごとの柄やドット方眼を調整し、ノートデコの際、ほどよく余白を彩って華やかになるように工夫しています。それぞれの柄がより魅力的に見えるよう、表紙の紙素材を柄ごとに変えているのもポイントです。(門脇)



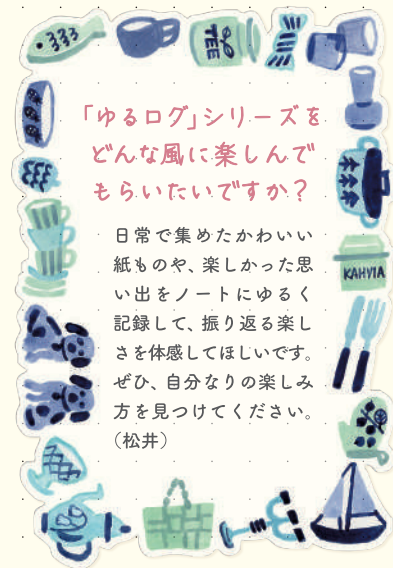
新製品の『隠して彩る修正シール』(※)です。書き損じをペンで消す行為に着目したユニークさに加え、各柄の線の太さや模様のカバー力も工夫しました。(門脇)

(※)次のページで詳しくご紹介しています



「ゆるログ」シリーズも
どんな風楽しんで
もらいたいですか？

日常で集めたかわいい紙ものや、楽しかった思い出をノートにゆるく記録して、振り返る楽しさを体感してほしいです。ぜひ、自分なりの楽しみ方を見つけてください。(松井)



「ゆるログ」シリーズに新たなアイテムが登場！



2025年5月に新製品が登場しました。

日々の記録を彩り、ノートタイムを豊かにするアイテムたちをご紹介します。

ドット方眼のノート

青い北欧柄 旅とホテル柄 モチーフ
テキスタイル柄

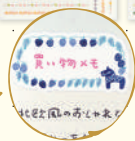


水性ペンで書けるシール

青い北欧柄 旅とホテル柄 モチーフ
テキスタイル柄

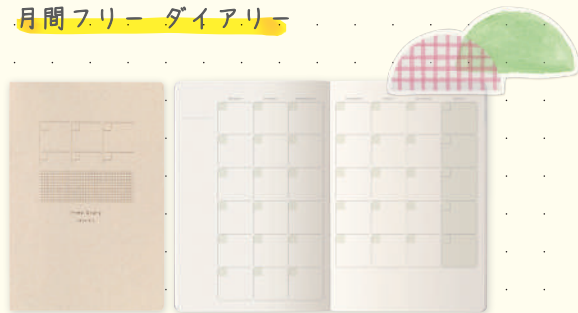


見開き4柄入りのノートと『水性ペンで書けるシール』には、
爽やかな色合いが魅力的な3種が新登場。



月間フリーダイアリー

しっかりと平らに開く
糸かがり綴じに
リニューアル。



余白を彩るシール

コラージュ 水彩モチーフ柄/コラージュ テープ柄



重ね貼りをしたように見えるシール。
貼るだけでコラージュが完成するので
かんたんにアレンジを楽しめます。

日々の記録を彩るスタンプ

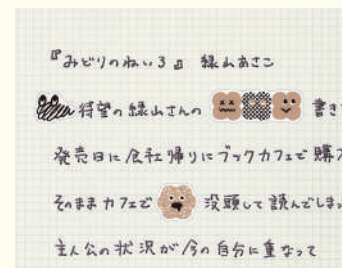
幾何学柄/フレーム柄/スイーツ柄/カフェ柄
暮らし柄/ネコ柄/森の風景柄/動物のポーズ柄



4柄セットの浸透印スタンプ。「ゆるログ」
の世界観に合うよう、優しい色合いのオリ
ジナルカラーを開発。インクが薄くなつた
ら専用の補充インキをお使いください。

隠して彩る修正シール

カモフラージュ ブチモンスター柄
カモフラージュ 森柄



間違ったところに上から貼ることで、書
き損じもデザインに変えるという発想か
ら生まれた修正シール。キラリと光る繊
細な金箔がアクセントに。

ファスナーポーチ ノートカバー

グレー



汚れが目立ちにくく、優しいトーンの
「グレー」が新登場。



ミドリサポーターの使い方をご紹介します



ユーザー代表として、「ミドリ」の公式サポーターとして活動いただいている
「ミドリサポーター」の「ゆるログ」の使い方をご紹介します。

料理の記録として

『ドット方眼のノート』の北欧柄に家で
作った料理の写真をゆるく記録。料理
の写真を貼って、シールでデコレー
ション。文章を書いた余白にシール
を貼ることで紙
面が華やかに。

minami
さん



SNSの投稿記録として

『ドット方眼のノート』の水彩
柄に月間カレンダーを作りイ
ンスタグラムの投稿を記録。
右下のパンチで開けた穴が
アクセントになっています。



takako
さん



コスメ記録として

『ドット方眼のノート』の
水彩柄に購入したコスメ
を記録。ドット方眼にあ
わせてイラストと文字
を書いてすっきり見や
すく。購入場所を書いた
『水性ペンで書けるシール』もアクセントに。



おだんごばん
さん

ヨガログとして

『方眼罫のノート』の左ページに
スタンプを押して、ヨガのレッ
スンに行った日を記録し、右
ページには印象に残ったレッ
スンの内容を記録。2mm方眼の
おかげでまっすぐきれいにスタ
ンプが押せます。



もじる
さん



「KNOX」スペシャルポップアップストア イベントレポート

2025年3月14日(金)～15日(土)
HALO SPACE 01(恵比寿)

フラッグシップモデル「オーセン」誕生10周年を記念したポップアップストアイベントを開催しました。会場では、「オーセン」で初開催となるミニサイズの「リングカスタマイズ」をはじめ、限定製品の『活版リフィル』や『アクセサリリフィル』なども販売しました。職人のアトリエに足を踏み入れたかのような雰囲気、で、「オーセン」の歴史と魅力をお楽しみいただきました。



「TOUCH & FLOW」 アートプロジェクト「Art Touch」

『アートポスター』『ポストカード』『ギフトカード』
発売日 2025年2月6日(木)

アートプロジェクト「Art Touch」に、新たなラインアップが登場しました。アーティストの描く原画をデザイナーがアレンジし、さらに、その表現にふさわしい、選抜された紙に特殊印刷を施すことで、原画とはまた異なる新たな魅力を創造する、この新しい技法を「クリエイティブワークスプリント」と名付けました。第一弾は、日本画家・栗原由子氏の作品を起用。今後も画家、デザイナー、印刷職人のコラボレーションによって誕生した新しいアートの楽しみ方を提案していきます。



MD PAPER PRODUCTS® 韓国イベントレポート

2025年4月2日(水)～4月6日(日)
COEX 2F The Platz A8ブース(韓国・ソウル)

ソウルの聖水にある雑貨店「POINT OF VIEW」と韓国で人気のオンラインストア「29cm」が共同開催する「INVENTARIO 2025 文具フェア」に出展しました。会場では、「MD用紙」が舞っているような空間演出の中、たくさんのお客さまに紙が自然の材料から作られることを改めて感じていただきつつ、MD PAPER PRODUCTS®の世界を体験していただきました。

デザインフィル役員人事のお知らせ

2025年6月18日に臨時取締役会を開催し、以下の通り役員人事を実施いたしました。

■ 役員一覧（2025年7月1日現在）

取締役会長	会田 一郎
代表取締役社長	会田 ゆり
取締役	太谷 博司
監査役（非常勤）	下川 良彦（株式会社キャム 代表取締役 CEO）

「第22回手づくり絵はがきコンクール」(日本製紙連合会主催) 参加賞提供



牛乳パックをリサイクルして絵はがきをつくるコンクールの参加賞として、応募者全員に「ミドリ」のメッセージカードを提供しました。絵を描くというクリエイティブな要素を持ちながら環境について学ぶ点が、当社の環境理念にも通ずるものがあるため、活動に参加しています。

編集後記

7月に会田ゆりが社長に就任し、新たなデザインフィルが誕生しました。当社の活動により、社会が少しでも心地よく、手ざわりのある場所になるよう、社員一人一人がチャレンジしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今号は、「ゆるログ」を楽しむように読んでいただけるような工夫を凝らしてみました。サイズの異なる紙を一度に断裁するのは技術的に難しいのですが、当社流山工場の職人のアイデアで問題なく実現できました。ものづくりの楽しさを改めて実感することができました。（編集長M.N）